

アーカイブ Data Report NO. 29

(2020年8月7日)

〒500-8813 岐阜県岐阜市明徳町10番地 杉山ビル5F
E-mail: shikaku@npo-nak.com URL: https://npo-nak.com

デジタルアーカイブの新しい利活用の展開

中部国際空港におけるデジタルサイネージ

久世 均 (岐阜女子大学)

1. 中部国際空港におけるデジタルサイネージ

本学では、知識循環型社会においてデジタルアーカイブを有効的に活用し、新たな知を創造するという岐阜女子大学独自の「知的創造サイクル」の手法により、地域課題に実践的な解決方法を確立するために、地域に開かれた「地域資源デジタルアーカイブによる知の拠点形成のための基盤整備」をしている。その中で、地域資源デジタルアーカイブを地域の課題の解決のために、デジタルサイネージへの新しい利活用への展開をし、2019年7月より中部国際空港の国内線6番ゲートで、飛騨高山匠の技デジタルアーカイブを活用したデジタルサイネージを展示しているので報告する。

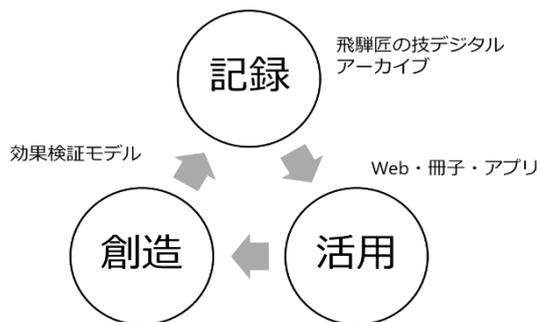


図1 知的創造サイクル



図2 飛騨高山匠の技デジタルアーカイブを活用したデジタルサイネージ

2. デジタルアーカイブの新しい利活用の展開

知識基盤社会においては、様々な正確で良質な知識の集合体の整備が重要であるが、知識循環型社会の実現においては、様々な知的資料を集積した知識の集合体をどのように利活用するかが重要になる。

また、様々な利用者が活用するためには結果よりも作業のプロセス情報が必要となる。意思決定結果より、意思決定のプロセスのほうが必要となる。即ち、知識循環型社会においては結果のアーカイブよりプロセスのアーカイブが必要となる。

デジタルアーカイブについても、最終的な作品より作品を作成しているプロセスのデジタルアーカイブが重要となる。今回、飛騨高山匠の技D Aについては、一位一刀彫や飛騨春慶塗の製作過程をデジタルアーカイブしている。このように、デジタルアーカイブする対象についても、知識基盤社会と知識循環型社会とは異なり、利活用することにより、新たな知識を創造する社会（知識循環型社会）に対応したデジタルアーカイブをする必要がある。

知識循環型社会においてデジタルアーカイブした飛騨高山の匠の技データベースが、10万件近い情報を非公開長期保存型データベースに保管している。この地域資源デジタルアーカイブを交通・観光に活用するために、デジタルサイネージへの展開を考えた。

デジタルサイネージは、一般に「サイネージ」と呼ばれることもあるが、「電子看板」、「電子広告」などとも呼ばれている。主な用途としては、紙に代わる新しい情報伝達媒体として利用されており、画像や動画などデジタルコンテンツとディスプレイを組み合わせ、紙のポスターやお知らせを置き換えて使われることが多い。

このようなデジタルサイネージを地域文化の広報のために活用することは地域活性化並びに伝統文化の発展としても効果があり、地域資源デジタルアーカイブの新しい利活用として可能性がある。



図3 デジタルサイネージコンテンツ

今回、飛騨高山匠の技デジタルアーカイブの10万点の情報から知の増殖型サイクルのプロセスを抽出しデジタルコンテンツとして作成し、中部国際空港に設置している。

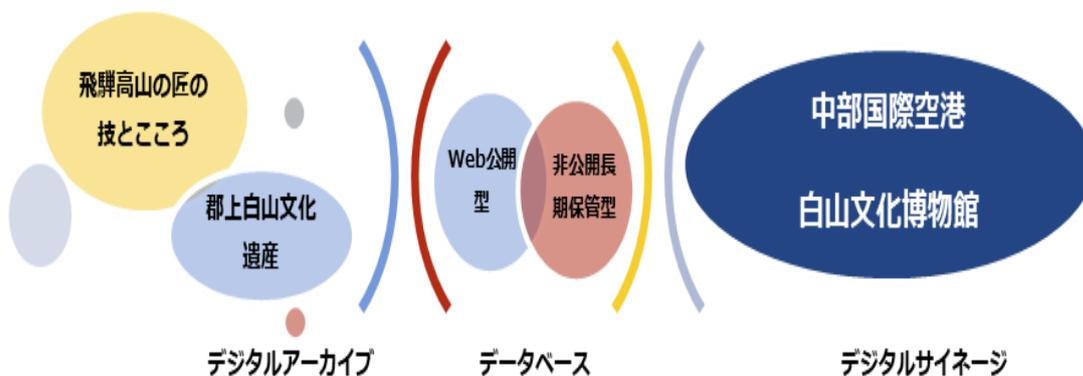


図4 デジタルアーカイブの新しい利活用の展開